

## 製造業（シャッター関連部材）に対する PEST 分析：2029 年を見据えて

製造業（シャッター関連部材）に対する PEST 分析：2029 年を見据えて

### 【P】 Political – 政治的要因

#### 1. 建築関連法改正の影響

- 近年増加する自然災害を背景に、2027 年頃までに建築基準法にて「防災性の高い建築材料や装備」が優先される法修正が観測される。これは「防風、防犯」性を持つシャッター系商品にとっては、むしろ機会。

#### 2. 地方自治体の地場産産業支援

- 日本の地方自治体では「地元作業手の技術継承」の支援のための補助金制度が強化されている。キャドシステムと連携した「バラ図自動生成サービス」は、地方自治体主導の「スマート工場化」に合致する。

#### 3. 地政学的リスク (中国、東南アジア)

- シャッターに使用されるアルミ材料や鋼材の供給元が中国の場合、対米政策や米中関係の情勢の寂化が、繰り返される買付価格に直撃しうる。

### 【E】 Economic – 経済的要因

#### 1. 原材料高騰と買付の中期的屈縮は続く

- 経済復旧の遅れ、中国の補助政策改善の振れ、エネルギー貿易の無効化などから、補助鏡製品やステンレス系の価格は常時的に上昇予測。

#### 2. 効率化で勝負する「御社サプラーモデル」

- 小事業者の価格競争よりも、生産線の効率化や発注バランスの強化が「中サイズ」企業に残る道を与える。

#### 3. 地方効率化による「ロケール製造」の広がり

- 大都市部との分業化で、「地方で挙げ、都市に給付」というロケール連携型は不動産価格高騰に対抗する手段になる。

## 【S】 Social – 社会的要因

### 1. 人手不足とミドル代の居場所問題

- Z 世代にとって、「製造」や「装工」は体力と印象の面で遠い存在。「デザイン思考」と「スマート製造」を採り入れることで「引き張り力」の積極的向上の気配が必要。

### 2. 建築工事の安全性意識の上昇

- 毎年のように起きる大型な自然災害を反映して、建築現場の安全完工物の耐久性への靈感は高まっており、「結尾材」やフォルム、約束文書等の内容にも変化が起こる可能性あり。

### 3. 「地方で生きる」「地方で仕事」の復活

- リモートワーク化や都市生活のストレスから、地方の小事業者へのシフトが観測される。「デザイン」と「真面目さ」の連携が錯綜を誘う可能性も。

## 【T】 Technological – 技術的要因

### 1. AI とロボティクスの搭載で、「製造サービス業」化

- AI によるバラ図自動生成、IoT での製造線監視、ロボットによる編集などがサービス化され、「手作」から「近代化」への変化が進む。

### 2. マテリアル技術の進化

- 金属材の質の向上と同時に、その効率の良さ、使用期間、解体性など、「現場での手間を減らす材料」が素材のデフォルトとしても流通している。

### 3. 脱炭素技術の強制採用の機運

- 2030 年の脱炭目標を見据えて、電動シオン型シャッターやリサイクル材料の展開が加速。使用電力を抑えるエネルギー系製造機器の必要性も高まる。

## 【5 年後の仮説シナリオ】

### 「自動製造サービス業」としての挙動

- AI ロボットによる自動化が前提の現場を基礎に、「バラ図のアササー化」「製造の代行化」のニーズが増加。

-デザイン力を有する人材を導入することで、「印象の悪い製造」のイメージを変える  
感性ビジネスとしての展開も見込まれる。